

タイトル「REAL LIFE」プロット

成田真弓 (ritama)

1. 設定

【世界観】

あらゆる時代・場所に通じる扉がある。扉は20分毎にたどり着く場所が自動で切り替わる。開けたドアを閉めてもまた場所は切り替わる。扉は、いつも同じ場所にあるわけではなく、扉の気分次第で自由に移動する。普段目にはしているのにその存在を大体の人は気がつかない。

扉を管理しているのは道化、そして扉の存在によって空間が崩壊しないように、空間を整えている掃除夫達が存在する。

【登場人物】

男1・・・売れない役者。独身。周りの人間は、続々と役者を辞めて就職していくが自分だけは夢を追い続けたいと思っている。

ソウゾウ（想像・創造）する力、表現するということ、夢を見るということが殺されていく世界を止めるため

1つの写真を元に、道化に導かれるまま空間を移動していく。

女1・・・服飾デザイナー。独身。仕事は成功、充実した生活を送っているが周りが結婚し母になる姿を見て少し焦りを感じていた。

ある日、自分が見ている夢の世界から出られなくなり、寝たきりに。

その状態を観察・研究するため、とある施設に入っている。

道化・・・この世界の空間を管理している。空間を担う人材を探しては、手を替え品を替え狩っている。

掃除夫・・・空間を掃除して歩く男達。空間を整えているようで、実は振り曲げている。

研究員・・・夢の中に取り込まれた女を研究している。

母・・・女の母。現実でも夢の中でも母は変わらず、娘を大事に思っている。

夫・・・女の夢の中だけに存在する、優しき夫。

女友達・・・女の友達。女とは同じ大学で学び、第一線で活躍している。

劇団仲間・・・男の主宰する劇団の座付き作家。同じ劇団の女優と結婚して、家業を継ぐ決心をする。

警官

2. あらすじ

男は、役者という人生を送る日々には満足しているが、役者で居続けることに疑問を持ちながら生きている。ある日、道化に出会い、写真の人間を探していると声をかけられ、道化達の世界に引き込まれていく。

女は、現実には満足しつつも、結婚し母になっていく友達を見て、少し焦る気持ちがあった。今の自分とは違う、結婚と出産を選んだ自分がいたらどうだったのだろうかと考えていたら、自分の見る夢の世界に取り込まれてしまう。

現実とソウゾウの世界。その狭間に生きる『モノをつくる』人の物語。

3. 要素

背景：基本的に日本。

時代：近未来。

場所：色々な場所に移動していく話になるので、極力シンプルな舞台セットで、

空間が切り替わっても、その場所を現せるのが理想。例えば、イスしかない、等。

出来事：男は、夢を諦めていないが、諦めざるを得ない状況に追い込まれる。

女は、夢の世界の生活に満足してしまい、現実世界を捨てる選択をする。

目的：表現することを、続ける人もいれば辞めていく人もいる。

ただ皆夢を見ていないわけではない。夢の中で生きるとは。

男は未来を見て夢をみる。女は今を見て夢をみる。

4. 簡易プロット

【前説】

観劇にあたっての緩く注意事項説明。

【chapter 1】旅は始まりを繰り返す

研究施設。女が寝ていて、研究員が今日も女の様子を観察している。

掃除夫達は、研究施設の空間を掃除している。

【chapter 2】時は巻き戻される

聞こえてくるのは、夢を語っている沢山の声。

それに被さるように聞こえてくるのは、日常生活に疲れている男の声。

—
「いつのころからでしょう　こんなにも臆病になったのは
いつのころからでしょう　夢を見なくなったのは
それは社会に出るといふことと無関係ではないような気がします
いえ　臆病になったわけでも
夢を見ることが出来なくなったわけでもないのかもしれませんが
ただ　自分が怖くなっただけなのかも
朝が来て見上げると　いつもと同じようにそこに太陽はあるのです
空には青空が広がり　白い雲が浮かんでいる
いつもと同じように　一日が訪れ　終わっていく
同じ仕事をし　少しばかりの失敗と同じくらいの充実感を得る
私の一日は・・・
私は今ここにいる　そして昔を憂いている

—

【chapter 3】再び会する

男と道化の出会い。写真の人間の情報を探しているという道化。写真にうつる人自体知らないと思っただけの男だが、無理矢理写真を渡される。

【chapter 4】狭間に落ちる

女の夢の中。夢の世界に落ちた女、そこには現実とは微妙に違う世界あった。

夢の中では、女は行方不明になっており捜索願が出されていた。女が交番に立ち寄る事で、家族に連絡が入り、迎えにくる。泣いて喜ぶ母と、女にとっては見知らぬ男。男は、女の顔をみるとすぐさま抱きつき、再会を喜ぶが、女は男を突き飛ばす。男は、女の旦那であることを告げ、記憶喪失である妻（女）の姿を見て嘆く。とりあえず、子供達の待つ家に帰る。

自分自身が辿らなかつた、もう1つの自分の人生を送る楽しさに取り込まれる女。

数ヶ月後、すっかり妻として母としての生活になじんでいる女がそこにいる。

【chapter 5】芸術は見る者の目の中に宿る

女の過去。友達との会話。周りの友達は結婚し、子供を産んで母になっている話で盛り上がっている。しかし、二人とも仕事で得ている充実を手放したくない。

—
女1　　ねえ、芸術は見る人の目の中に宿るって言葉知ってる？

女友達 何それ。

女1 アメリカのことわざらしいんだけど、テレビドラマのセリフで知ってさ。

芸術を見てどう感じるのかはその人次第って意味の言葉だと思ってるんだけど
美しさは見る者の目の中に宿るという別の訳し方もあってさ。

多分、私は結婚して子供産む選択をしたら、日常に追われるだけで、
今のような作品を生み出す目ではなくなっちゃう気がする。

それが私はとても怖い。芸術を、美しさを感じられる目じゃなくなったら
それは私じゃなくなると思うから。

まあ、妻に、母になったら別の感覚が生まれて新しい世界が開けるのかも
しれないけど、そうじゃない、そうじゃない気がするんだ私のデザイナー人生は。

女友達 なるほどね。・・・じゃあまあ、独身貴族を謳歌するぞ同盟として、改めて乾杯！

女1 乾杯！

――

場面は変わって、研究施設。女を見守る母。研究員と母で、少し会話。女友達も見舞いにくる。

【chapter 6】 ツークツワンク

男の現実。座付き作家が劇団女優と出来ちゃった結婚をすることになり、劇団を辞めると言う。必然的に劇団は解散。途方に暮れる男。ふとポケットの中に手をつっこみ、写真の存在を思い出す。写真を破ろうとするが、思いとどまる。

再び道化に話しかけられる男。道化は男を、自分の仕事に誘う。断る男。

<男の心境変化となる事件 考案中>

【chapter 7】 声にならない想い

道化（探偵）の手伝いをすることにした男。道化は、扉を使って色々な空間を行き来して、あらゆるものを探しているという。その探し物の道中で、男はかつて劇団仲間だった座付き作家の姿を見つけて思わず声をかける。そして、口論になる。

男が殴り掛かろうとした時、道化に時間がないから、と無理矢理連れて行かれる。

【chapter 8】 クロス

男が道化に連れて行かれたのは、女が見ている夢の世界。男は、子供を連れた女に写真の人物を知らないか、と声をかける。驚いた表情の女。女は言う「あなたの写真を見せられても困ります」。去って行く女。写真に写っていたのは男自身、しかし男にはそれが自分だとわからなくなっていた。写真を見つめる男。道化は男に真実を告げる。帽子を手渡さ

れる男。帽子を被り、男は舞台上からいなくなる。

【chapter9】リフレイン

【chapter 1】での研究施設での新米掃除夫と同じやり取り。
新米掃除夫は、男1だった。扉を閉めるマイムで緞帳が閉まる。

【chapter 1 0】扉は開かれ、また別次元へ
道化が出て来て、物語の終わりを告げる。

――

緞帳幕が閉まる。幕前に道化達が出てくる。

道化1 さて、皆様いかがでしたでしょうか。
緞帳が閉まったということは、ここで物語は終わりとなりました。
この幕が開けば、着替えた役者達がラインナップしております。
芝居が終わってしまえば、彼らは彼ら自身に戻ります。
役を演じた彼らに大きな拍手を是非ともお願い申し上げます。
しかし皆様に忘れないでいて欲しいのですが、
この幕を閉めたのは、掃除夫です。扉が開かれるとそこは別次元。
皆様、お帰りの際は、現実の生活に気をつけてお帰りください。

道化2 さて、舞台監督から合図がきました。準備は整ったようですので
幕を開ける事にしましょう。ここは、ありきたりな合図で。

『Open Sesame! 』

――

【chapter 1 1】カーテンコール